



0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2 3 4 5 6 7 8 9 70 1 2 3

門口七
號 1029

野總茗詰序

吉田東伍
明治四十二年四月八日
兵寄贈

擇人之職誦王之志道國之政事以巡天下之邦國而語之使萬民龢說而正王面余至此深知先王設教詳且悉也天下大矣庶矣非一人所能馭宰佐焉有司行焉吏令焉民聽焉而後君華拱於上而天下治焉俄之唯々可便由不可使知不知則疑々則不服故置擇人之職誦王之志道國之政事以巡天下邦國而語之此所謂道之以德齊之以禮廻自南自北靡不思而服者也叔世不狀任智恃力一斷刑灑敬讓博愛之道蕩然令之不行執刀鋸立椎五刑不足鑿阱抽脅鏽亨之肅煞鬼薪白粲桎梏之苦楚興焉悲夫廢古衡而用吏治而豈其治哉常盤子好古以逸民固處東南南北教人為善古鄉先生之流也適有畚問者輯其言自題曰野總茗詰問序於予曰善哉常盤子方今聖世興固之衡除苛酷之政政教大闡庶績大熙五常可六三王可四但邊鄙窮鄉之民一夫胥不興被堯舜之澤胥則胥缺虧治也予胥耳提詢

孝悌之教々人入于心施于身則鼓吹

休閑順
真意大合

休明順
真意杳也是集也非莽之言已而元人教人爲讐譽舉
置元職則獻說萬民必胥可觀者豈示見
聖世之比屋可封之脊端云因論固衛以為序常
盤子名潭北野之烏山人

京保染天丑之六月
東都圖書

東都圖書府主事錦江鳴鳳鄉
系陽東

印
二

野總茗詰集

今本

余野州後字常盤潭北遠

人を解きておはしたる時より天命と云ふ事あつた。天命より人といひてあれたる命
をもふりこまし人をして富をも食へ猶もとも生をも無く爲めをもて天の命にせら
矣。食糧を天命とゆき孔子大聖よりて傳するありて始む。實也。天命とゆる事も。天大
聖也。昔めて天命とゆき。ふとばんや孔子の傳むれども始むものちや。とくと全く天命
かくて天の命令。あ。乃ち。か。ふとぞれえ周。天代仁徳を精る。或王。或して天帝。或奉
天。或代天行。天命とゆる。然と恐き。とくと年。の。皆。の。皆。れども。天を以て。天命。一。此。唯人。天壽。也。而。
と。命。せ。天。天。の。命。あ。う。れ。ち。と。天。行。を。天。命。と。な。と。之。一。凡。動。地。之。始。と。天。命。と。人。
人。の。命。始。と。天。命。と。人。

行ひて向日儒佛沐老莊仰て況く風也を解ぬるに當川水もり無乃済の外に於けし
而後此は年々うか極行ひて處あるが故もあらざるを恨の口器に重んじ、蓋自呂眞乃御子を海を
か花の向す也其處に於て、いふと申す事もあらざりとヤセ、したまうるゝ事より、ルル丸角を上への道を増む
又ちかへて、いふと申す事、ニヤセ、寒海ひと記す、かを也のと申す事、改めくらみ又問ひを乞ひ、ひきの
言ひ事や御法、かくかくと自分の方のなる事と申す事、やうなる事にて御津ひ事、不ふる事を申す事
られきて、無言曰、既に一筆りや、あらア、御教天地の君もれ、八百萬の理、漏さうの事無き事也、
主中、人、自が乃だとやねあを有あ、近牛坐てたゞ、山中御色も物と、改めて判明すア
人を、おなとがくやア、とぞとおもん男女、わるわの交合、馬場や合ひ事の取扱ひも、畜
區かとおとと畜生の如く、父兄見せ交合、玉姫となりて、人をとほりあんそ合とよへんやを
泥の窓で、りぬ時、人の心と傷ふ、シナヒテスなどひふて、人乃た物、こはりは、天罰、人體を
煤立ち、此を嘗つて、覺り、油を他の妻と抱き合ひゆて、人乃た物、こはりは、天罰、人體を
畜生の身のまゝに、はみ出せ畜生が在り、相あわぬ、御前、天子、朋友の如る、畜生はよ始末、
ひ附子、とるや、玉姫と、朋友の如く、泰和の仁、也て行たて天庭、又よとせん奉く、她とどうも会
てあき落す、ひつね、と、自ら、泰和の仁の心と、どうやら、泰和の仁と、やうて、たとへんりて、
あく睡る、ア、ア、あき落す、ひつね、と、泰和の仁の心と、どうやら、泰和の仁と、やうて、たとへんりて、
又向こう、泥の窓で、御法、改めくらみ元奉ね、奉ねて判明すア、又問ひを、乞ひの事より、
また、改めくらみと、御法、改めくらみと、御法、改めくらみと、御法、改めくらみと、御法、改めくらみと、
用ゆ、「身と體の事と、世と、法との事と、御法の事と、御法の事と、御法の事と、御法の事と、御法の事と、
蓋、自、う天下の御法を、乞ひ、一筆り、と、改めくらみと、御法の事と、御法の事と、御法の事と、御法の事と、
一小事と、御法の事と、御法の事と、御法の事と、御法の事と、御法の事と、御法の事と、御法の事と、御法の事と、
之の事と、御法の事と、御法の事と、御法の事と、御法の事と、御法の事と、御法の事と、御法の事と、御法の事と、

This image shows a vertical strip of aged, yellowish-brown paper. The strip is held in place by four ornate metal pins: two at the top and two at the bottom. The pins have decorative, leaf-like or floral heads and are attached to the paper with small loops. The paper itself appears slightly textured and has some minor discoloration or foxing.

君父乃應輕重の義
爲父の恩何れも重くい 言曰恩子懷畫るべし。又、并發上層へ就くにあらず者無
み。又、主を尊んで仰む者も、既すら思ひうれえ乳赤といふを玉の身の如くものとおもふふと

卷之六

一月一日
佛法宣弘と同人二言
佛はのる於知、徳を大極あり也。又凡ては全く三倫と繩以至焉たる法よりも三倫の外に
害れり。而して政事もまた其政欲也。アリテ中華と日本、古の始より今日、もととに氣きて治り
來りはた一百八十日亂き。而て一日治り、また佛法を治めらる。必ずもとと化へ強て承ゆき法よりは
も根柢の教の如く育てん。天地の一氣者これ。其體が育ひ若されば大なる
也。希もとより是が表率無事にて内満行して寺院にて講義へ令う。幼を家と
居

きと指を寓へるゝ物一きと是よりかへては後よりてゆる者もあらず
所色くよき事にて上代より今と一人をめりき者にはゆくゆく
義端と諱謙心者礼端とは是非小者皆端じことへり世ひとくとく
寔といふ事ハ云ふ事と云はば端ならん人ニ仁義礼智を教ふたりしゆゑ
と語りし義學を長とかりみかづらひに端ならん人ニ仁義礼智を教ふたりしゆゑ
宋儒の流よしるの性をとて宣宗の氣質の性みて孟子の性と云ふ事より
これら政事が益子の知たるが由と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と
て端々と覺つてはととてては端を以て性名の性と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と
質の性の論起りてより學向向上へなりやけり尔癸未上元節くみて九孟の性と云ふ事と
此の要無事とて論せらる唯日用事倫の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と
空く此字と先陰を遺すと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と
是と性と謂ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と

卷之三

卷之三

古文前集仁宗皇
太子時

一
示間御は貴民がよく學問のあらわし言ひにあらずで民も業のうらぎ業の良否ゆゑに國事其業も
間とて是の食く如よわ々業を裏りて學問一すもんの意をもつて又業の徳ある人ハ是
間とて是を行ふるゆゑ下佳生乎にこそ是とよさんゆゑをもる甚き事と云ふ事を管てむるを況
を味ふると是のやう上はがん人也と飾り後まことに人を足下へ手を以て口を指すれ
人の心を育むる事、為父をト弁ニシム已ウ能達の心ゆゑなるハモテ老本れへ教訓向より如く
斟酌一例・極ひ得て色ちと乃てはれり爲小人達も人は向きては爲主の清高のとをみて之れより
是者と云ふれたらり物をなむる荆の如く而石墨味の財も本筋加魯人ト御人多一叶り是者
字

欲しがる事はあん間にせむとぞ承るをゆべりて後を以て坐とく叔母をゆべりての日リたをりさんをときを
もより。一日もちるれども伦理を以てしもと多事とあり。一者する伦理をひてたまはゆる事
義をなりう身をがるもまたをゆべりて竟をもす事のことをとさかへるをよふ時、ふやして能く
みぢみや。即ちねづるをみてゆもじゆみらを思はされもの教きて、教わぬもの外に、かましも倫語
二十篇学ふ而時習うりれよと人を知るも心よわゆきゆりゆれをとせんをとせん。ハ
後は急務をなす也。但ま説すつまうを。併れもとまはせんへきのうちじを脩んどうふと身に行ひよ
儒者乃悔

或人次男を儒者と見るをゆりてゆくと問。答曰。儒男には学問の本量かえりや否。在
ゆと見ゆる。併れ多く人づ儒者。加くもめでてゆく。あらと見て。目され学問。ほのるよそひい
ゆも身を脩のむを汎し。孝性忠信。あらん。あらゆるを知り。身を脩むる。されば。海世の名を
一而少用。儒者と。ゆく。怡く。淳冷く。名を産のゆをあ。終ては。仕事。をそ。大抵。才人。うち
ち或るのゆを。昂り。ゆまに。ハ夥ひよ。学オシテ。三身れ始。ゆを。あれへ。一の。益學。や。て馬。門
らを行ひととを知。あと。才と。其量ゆる。あ。否。西の。深。や。も。の。も。先。是。事。儒者。の。悔。ち。不。有。り
御。族。の。職。ゆ。を。猶。是。じ。生。て。之。世。上。肩。を。背。て。乃。奉。毛。芸。一。人。あ。面。を。媚。る。の。應。對。、倦
怠。て。の。氣。と。ア。れ。も。學。を。缺。く。一。業。主。の。ミ。通。經。滿。の。大。志。を。抱。く。者。有。力。う。だ。或。尚。久。た。ん。す。情
り政務を委。が。ん。や。む。り。田。舍。う。游。ふ。出。て。三。身。を。稼。く。者。二。人。二。人。學。問。の。本。量。を。と。儒。者
こ。な。り。そ。今。去。家。や。捨。人。持。物。も。て。五。月。今。六。十。、年。か。と。三。身。も。ゆ。又。そ。人。の。小。切。手。も。と。そ。て。い
立。身。」て。三。身。と。於。す。ち。な。り。收。儒。者。た。ト。海。ミ。ク。家。」學。問。す。ぐ。大。へ。よ。ち。そ。そ。果。ゆ。き。
儒。者。三。思。ひ。付。た。も。令。墨。是。ゆ。か。う。き。は。今。し。や。と。そ。う。か。小。子。思。す。を。全。量。を。え。そ。り。そ。質。へ。不。忘
る。と。厥。は。す。「生。廢。や。不。意。の。あ。捨。れ。も。つ。も。

又問曰、
「を治る儒者へ入らずりや。是れ何事か。」
答曰、
「古聖先賢の天下を治めたる所も、あつて治はるの法
は、儒者の入用ハ少く、ゆゑにこれをいづむべからず。治政書も、和文も、人の心也、皆無く、猶よ御辭を書む者も
一毫も存せず。是れが故に古乃堯舜の後、今之治政の法も、遠くとて、極るまじき。又、章のひらきの
ものより、これの入用やく、経て、初うどより、不思議なれど、宋の代、とて、盡らるゝ。」
御れぞ始め治り、忽
たり、と、あれど宋儒の性理の学をそらみたる者、治政の法とて、治るに人訓あ
く、嘗て、きし、私を放ちて、勤き、志をもつて、あきとやらて、静らん、構く、愚く、慮すて、一年ももする者あり、一夫て、瞑
一き奉らす。法をめらとつらひ法を以て、民を安む。多官法を立て、後退序を遣すと、後進序位を詔す。古御跡
御り御門守りたて、奉行改へ、是れ本間とて、甚久をもつて、かず若むるをゆき、改は舊依循を以て、事
相続を續むる是れの御前やて、而御の通例へ、せよとて、治を以て、掌事のひる、出立するく、唯儒者一人のみ
を直る天の、一蓋者こそりて、叶む者若くして、叶む者

愚考後半の心経を説く所ある事は、それらの心経が「仁徳業」や「義の柱」として構成される様子である。この段落では、柱の形で構成された組織が、その強さと柔軟性、そしてその存在意義について論じられる。柱は、常に直立する力を持ち、一方で柔軟性も持つ。また、柱は、他の柱と連携して、より大きな構造を作り出すことができる。この点で、柱は、個人の心や志、社会の規範、そして組織の運営において重要な役割を果たす。また、柱は、常に直立する力を持ち、一方で柔軟性も持つ。また、柱は、他の柱と連携して、より大きな構造を作り出すことができる。この点で、柱は、個人の心や志、社会の規範、そして組織の運営において重要な役割を果たす。

立場から見て、虚人としての実力は、必ずしも柱の強さと柔軟性を兼ね備えたものである。柱の強さとは、その構造的堅牢さであり、柱の柔軟性とは、その可塑性や適応性である。柱は、常に直立する力を持ち、一方で柔軟性も持つ。また、柱は、他の柱と連携して、より大きな構造を作り出すことができる。この点で、柱は、個人の心や志、社会の規範、そして組織の運営において重要な役割を果たす。また、柱は、常に直立する力を持ち、一方で柔軟性も持つ。また、柱は、他の柱と連携して、より大きな構造を作り出すことができる。この点で、柱は、個人の心や志、社会の規範、そして組織の運営において重要な役割を果たす。

肆總考詰第四

卷之三

或問某段分之僕約を習ひて各きのう、かきのじ、済清せられましゆの財味せやうたまに萬々起
申はばらのことをよしと若下申。吾日され僕約ハ委合便を席おひて全組を賣まねのまうせ一
身のあみを能せよとて人のるゆゑに意地やくあり是るをとて合會する人のむとちて驕らるる
り僕約ちり全組と湯あるをもりて放ニトシキ。僕約を似せら。各番に僕約して高熱乃まそ
ふとくを意地す。與くうがみをもひ僕約して意地を減さん。人を教え
ありきつや職業ハ又母妻子とやうひとせんをありあ線お拂へらるるを實と減さん。人を教え
物事あるを篇の竹りとひ恒ア。僕約と施すのあき。各番聚歛され。主事とワタを拂らる
ア世間たゞ僕約と恒ア。大至き病とくも又拂りて費支あら者ハ分量を應じとあを負む。行
きゆる服あくを爲る取れとそく恒ミ。然るに筋を下人。ふる年ア。うて金條トマ。徳
れぬ相く。また紙の名きよ退屈ア。墨てめり代す紙を治ス。かうてまつとみじめ限ス。徳
い限りゆる縁と後ケナ等。紙の志シテハ。而後かて。旅とて海濱を惠マ。後、あくま多内乃
くのよ旅心と吐とく。其宣傳の文番よりや改名ヘ。かく云ふと以ひだらけと見えて
言草の如キ。却りて旅心と不景氣ハ本を柱ヤ。」
僕約の人。石上とくらやモ一彌引亂りきさや。各番面かへたと候ふ鶴席きりと僕約ちる人
交り厚い通るを。古畠をも人の文跡。一疋しゆ。僕約ちる人へよ被毛仁をられ。各番が
人ハ已のみよきかのに電十ちきゆ。もろき端を好む。ひそかに。各番が
うと目あよき。もくをはるを。考てゆき居候つ。一堯。も帝ハ某處の到とき。古御
より。うきま。他乃僕約推て。かく一られ。千秋の後。と。奉さる。馬兵を敵ひ。族をも。大明の思宗
皇帝ハ。緒とよき。わと志。筆を。僕約推て。かく。一。御。方。滅。也。亡。た。が。族をも。と。後。ひ。ふ
石城。守。拂。ま。れ。な。が。わ。で。漢の文帝僕約と。もの。十三。年の。四。二。月。す。統。を。伏。一。名。に。御。を。拂。ひ。と。後。ひ。ふ
終。を。守。き。に。わ。ま。は。又。因。窮。セ。モ。王。か。ま。る。こ。漢。か。口。Q。の。奉。と。う。死。の。竟。に。よ。起。る。と。つ。完。成。
文帝乃僕約。乞。を。物。と。も。し。ま。う。と。僕約。玉。か。を。承。ス。下。各番く。端。尔。は。御。を。拂。ひ。と。思。惟。
く思惟。て。僕約。を。拂。ひ。あ。ね。く。僕約
齊乃晏子。リ。僕約
或向膳りの憂。う。を。き。の。じ。作。僕約。か。と。早。く。人。の。交。り。と。迷。一。唯。身。の。分。量。を。知。り。て。膳。程。を。整。す。定
つ。あ。き。う。し。各。日。と。分。量。を。知。る。う。や。う。ゆ。て。は。晏。あ。え。齊。の。家。か。を。な。れ。一。せ。を。き。並。萬。一。
を。晏。夫。人。ハ。獄。袖。と。せ。れ。と。今。の。世。晏。る。ほ。と。の。分。量。の。全。才。僕約。を。か。き。や。と。僕約。の。令。量
を。宿。す。と。や。う。り。る。よ。と。く。は。萬。一。ま。う。え。い。か。内。ま。ち。る。老。弱。の。軍。兵。と。將。士。が。と。被。一。た。が。人。を。そ。や
以。人。中。交。ゆ。ゆ。と。大。仰。や。う。仰。て。あ。と。晏。年。仲。能。車。人。交。各。而。故。美。と。安。樂。ひ。う。私。を。体。の。友。と。仰
正。を。保。ん。あ。其。学。晏。舜。の。う。三。及。大。き。と。う。寔。か。た。活。と。ま。一。今。鳥。の。う。半。と。世。界。キ。の。人。い。き。れ。絶
え。そ。う。か。う。と。今。の。世。僕約。中。ま。う。一。そ。う。も。の。以。の。う。る。善。と。方。も。と。

卷之三

の心、ひきりの心、おまかで仕事、仕事乃れりと、仕事おきるは、役者たる男、この事
大槻府考に及んで、仕事と見らねど、飾り詮あるのまに仕事とし、詮を失ひ其半より悔
人浦出で下りてある考のゆゑも、改めて考ト第宜治一、ゆゑ考のゆゑ弱くが似せむ居外、すらに
治世み武を忘れぬつ海の武士にて、公人ト書を始終えりうたとおなまゝ、仕士ニシテ自らを知
た後、厚く骨れ、とてよ有り、うやア久々言ひ、儒者ニシテ弱るをすら、今よりうく明
治の体を公用ひしるを、そひこれ、ゆゑ乃風俗、和を尊び、政事の字面と和けて政乃
平セ日用ニ極て居るを、てて治本公事ゆく、字面を好ミ詮ふ君ら、れども亦全うまく、政の平
と日用ニ至れり、儉約小差、足り無然ハ心の意態を乎しやう洞の情、物語れ、無然あれた言葉で
心えきる時、マ如人の毛、筋人同甲をえ遠、於此、さう、うわさて庄を、もと、あく、是入らるる者
すから、云々、をぬ人の毛、毛くらへたる意態、小色といふも、旧跡を、もとす裏、らる、と極
人弱きを物、ケ恩次彦、考く、有ふと、仁の行と、やう又、儉約、云々、意態を、きるの、僕約、し、益然あれつゝ、
家乃心、あく、僕約、たれも、後、友、まつり、も用、足、ひきの、山、二の、行、を、學、り、ひ、修、力、あ、い、字、向、と、
旅、あんの、軍、あへ、と、され、たれ、たれ、たん、人の、た、船、を、も、限、細、す、も、あ、と、貨、細、よ、旅、く、付、け、也、と
を、じらり、て、た、後、宿、ひまく、か、れ、飾、り、詮、え、うと、意、て、た、旅、を、失、ふ、た、の、た、と、に、義、カ、事、を、ゆ、
ひ、す、る、く、け、大、旅、旅、ま、た、の、一、旅、ち、れ、之、取、り、あ、く、作、り、ヤ、下、山、の、女、の、也、と、字、向、格、ま、く、と

農業の工の通用も、良否を以て先取れども安易とほ
たりや。智の海を以て智も用ひて時に曲て苦しみに義もしく智も
一てあらむと故にたまづ今をかゝる人よとゆきしらはれ様
ふくよあらえ焉問へぬくんをあらむとゆくが是が、あらえとゆきのモ多めのゆ余あら
能くいふよ。只人ぐらんのゆくうゆく。左を以てアラマ
山業の日出乃お居の内ゆく萬泡のをきなふ。しかし又あく農商乃ちす有て渝も
低く言ふ。早而質直を好む乃く亥子江戸少田町席在の東野野列席
乃亥子江戸少田氏して業を創のゆくと由年齢・在宅・立店にて七宮
山約畠筆を以て書を流旦年よ勤て所と論てく倦
る。その上至はるを梓門せんとと題り、初め
甲子暮秋の夕々人よもあらひとと若狭大老たる。一山少田年を言ふても、無と
ともうりてそ苦言不れを教へる。ふと云ひて自首へゆく印を呈る。よへ
寛りあるとひとじゆきよりてゆくにと情ありと考へ候。ゆふ
は字不系元二万枚うちゆきと梓行の累とくにゆ
るる。さし苦心仙地大伏の如く。忠義傳曰、而安政、ある奉
の幕、うる春行みくゆく。拂、うる玉質ろをもる。学者の
後日必取。々世乃儘とたまくきゆきを希ふ也。

野鶴芳詒卷之大尾

一枚 想數八十



西台
卷三